

医師とイコールパートナーをめざすコメディカル図書室

医療技術短期大学部 庶務掛長 中 村 正 次

医療技術短期大学部は、昭和50年4月に併設短期大学として病院西構内に設置されました。図書室は昭和52年12月に前身の専門学校所蔵の資料を母体として南棟2階に開設され、現在は書庫、閲覧室、視聴覚室からなり医療技術や医学関係の資料を中心に約3万冊を所蔵しています。図書室の場所が教室や実習室に近いことから、学生が休憩時間にあわてて走り込んでくることもあります。書庫が狭くて電動式集密書架で2通路しかなく不便をかけています。

資料の中には、前身の「京都大学医学部附属看護学校」や「京都大学医学部附属衛生検査技師学校」と印の押された貴重な(?)古い資料も多くあります。昭和57年4月に理学療法学科と作業療法学科が設置され、関連の資料が収集されたために書庫が満杯となり、地下室と旧白眉寮にも一部の資料を保管しています。

これからの自学習や研究には図書・雑誌だけでなく視聴覚資料も必要であり、平成14年4月から閲覧室の隣室を視聴覚室にしてテレビ、ビデオ、CD、DVDが利用可能なAV機器を10

台設置しました。また、視聴覚資料のなかには教材だけでなく映画や音楽のソフトも配置しており学生たちから好評です。

利用時間は10時から18時まで(13時から14時は休室)でしたが、医療短大の学生は病院実習などで遅くなることから開室時間の延長希望がだされ、平成13年の6月から医療短大の学生アルバイトにより1時間延長して閉室時間を19時としました。また、平成14年11月からは昼間の1時間の休室も開室とし利用者へのサービス向上に努めています。

医療技術が急速に高度化・進展する中でコメディカルに対する教育の質的向上が必要となることから、本短期大学部も以前から4年制教育への移行を検討してきましたが、いよいよ平成15年10月の医学部保健学科設置(予定)に向けて作業中であります。本短期大学部の図書室も、医師とイコールパートナーをめざすコメディカルの図書室としてどのように発展させていくか、その将来構想を現在図書委員会にて検討中であります。(なかむら まさつぐ)

